

细腻なんて言わせない!!

292



「仕事は人のご縁ですから。周囲に救われ、助けられて頑張っています。逃げることなく、最後までやり続けて形にしたいですね」と、語る鷺さん

人のご縁、協力に感謝です

「固有の精神忘れず」と話す

鷺 ゆうみさん

■ ゆう美代表取締役
■ いわき市植田町中央一丁目一〇ノ一一

電話／〇二四六―六三一八六五五

「高校を卒業後、美容学校へ行き、美容院に勤めたのですが、実家から強制的にUターンを命じられ、しばらく父の仕事を手伝っていたところ、いつの間にか私が後を引き継ぐようになってしまつて…」

笑顔を見せながら、土地のあつせん業などを行う不動産業界に入った動機などを語る、鷺ゆうみさん（五一）。

会社は父親の伸吉さん（八〇）が起し、地元の植田、錦など勿来地区を主として事業を展開していた。鷺さんは地元に戻った後、二十四歳で結婚。三人の娘の母親として主婦業に励む傍ら、コンビニ、青果市場などでパート勤務をしていたが、東日本大震災の発生半年後の二〇一一年十月、父親の会社に就職した。

同社では不動産売買、家屋などの賃貸、あるいは仲介、管理などを行っているため、鷺さんは各種の関連資料の整理、当局などへの資料提出などを行う。資格取得のための勉強も開始し、二〇一七年に、念願の宅地建物取引士の資格を

取得。

「四回目の挑戦でした」と苦笑いする鷺さんは、この年に社長に就任し、「父のネットワークを活用、そしてアドバースを受けつつ本格的にスタートしました」。

仕事は逃げず、最後まで

この当時、地域一帯が壊滅状態になった大震災後とあつて市内は、いわゆる不動産バブル。「あの当時は、不動産関連についていろいろな申し入れなどが引きも切らずありましたね」と、振り返る。

大震災以来、九年が過ぎ、鷺さんは、「今は土地探しなども少なく、やっと落ち着きつつあります」と、穏やかに話すが、社長として乗り出してから「男性性のせいかわかりませんが、こ

れまでには大変な思いも、失敗もたくさんしました。波がある仕事ですし」と、しんみり。

ダークグレーのパンツスーツに真っ白なブラウスを、ユニホームとして着ている、彼女の一日は、「午前八時には自宅近くの会社に出、事務処理から始まり、資料のチェック。仕事のエリアは勿来地区が多いですが、お客さんなどからの情報次第では東京や千葉などの関東方面へも出かけて行きます」。

会社はJR植田駅の近くで、取材中も電話、ファクスが頻繁に入り、丁寧に対応。「皆さんとのご縁が大事ですか



ら」と言つてにつこりしつ、「うちは大きな不動産会社じゃないので、細く長く、お金よりも信頼大事に、です。そして、『一期一会』を忘れずに、でもあります。たくさん失敗して学んできました

から」と、信条を笑顔で披露した。

テキパキと応じる鷺さんは、人との出会い、縁の大切さを何度も強調すると同時に、「失敗を積み重ねて一つひとつ成功へ導きたいと思っています。私は、どんな仕事でも逃げないで最後まで頑張りたいし、形にしたいんです」と語り、「今は『個』を大事にしすぎて、古き良き日本の固有の精神の『集(家族)』を忘れてしまっています。政治も社会もですが、あまりにもつながりが希薄すぎ。自分の欲ばかり追つてはダメですよ」と、表情を引き締めながら語っていた。



「いっばい失敗もしたよ」

「一期一会」を忘れず 細く長く、信頼大事に

プロフィール

さぎ・ゆうみ

1968年9月11日、植田町生まれ。「周囲に救われ、助けられて」と言う、小柄で童顔なゆうみさんの趣味?は、「父親譲りの献血。高校時代からやっているんです」。娘3人は全員看護師。仕事で人に接しているので、「休みの日はなるべく控えるようにしています」。好きな言葉は「温故知新」。得意な料理は、「何でもですが、特に和食です」。AB型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

※このコーナーは隔月掲載です。

新たな京洛陶の世界を探して 檜垣青子茶陶展

■会期/令和2年2月27日(木)~3月3日(火)



檜垣青子

檜垣崇楽の長女として生まれ、祖父は桂窯、雲華焼土風炉師、寄神崇白。全国各地で茶陶の個展を開催する。

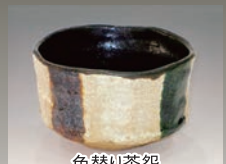
鈴香合 熊野香合



てまり香合 みる貝香合



カセ釉茶盃



色替り茶盃



赤茶盃



黒茶盃



有限会社 小野美術

営業時間/午前10時~午後6時(最終日は午後5時閉場)

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F
☎0246-35-0383
HP: <http://onobijutsu.jp> e-mail: info@onobijutsu.jp